



PRESS RELEASE

大学記者クラブ加盟各社 御中

平成 21年 5 月 26 日
岡 山 大 学

宇宙大麦の収穫体験の実施について

概要：昨年秋に倉敷市立西小学校4年生児童が種まきした国際宇宙ステーション内に5ヶ月間保存した大麦種子の孫種が生育し、このたび同校5年生児童が収穫します。また、宇宙を旅した大麦についてのお話や宇宙麦茶の試飲を行い、宇宙環境と地球環境の違い等を勉強します。

1. 名 称：宇宙大麦の収穫体験
2. 日 時：平成21年5月29日（金） 10時30分～11時30分
3. 場 所：岡山大学資源生物科学研究所（大会議室、実験圃場）
（倉敷市中央2-20-1）
4. 参加者：倉敷市立西小学校5年生児童（51名）
5. 予 定：10時30分～11時00分 「宇宙を旅した大麦」のお話（大会議室）
11時00分～11時20分 「宇宙大麦」の収穫体験（実験圃場）
11時20分～11時30分 「宇宙麦茶」の試飲
6. その他：雨天等により畑の状態が悪い場合、収穫体験を中止する場合がありますが、「宇宙を旅した大麦」のお話と「宇宙麦茶」の試飲は行います。
新型インフルエンザ対応策により、行事の全てを中止する場合があります。



<お問い合わせ>

岡山大学資源生物科学研究所
准教授 杉本 学
（電話番号）代 表：086-424-1661
研究室：086-434-1253
E-mail：manabus@rib.okayama-u.ac.jp





PRESS RELEASE

【期待される効果】

宇宙は子供たちにとって非常に魅力的であり好奇心をかきたてるため、宇宙実験を利用した理科教育は子供たちの科学や宇宙への関心を導くのに有効であると考えます。本体験授業への参加により、子供たちが科学や宇宙に対する強い興味をもつきっかけとなることが期待されます。

【宇宙大麦研究の背景、目的、経過について】

岡山大学資源生物科学研究所の杉本学（すぎもとまなぶ）准教授はロシア科学アカデミー生物医学研究所（以下『IBMP』）Vladimir Sychev（ヴラディミル シチョフ）博士と、ロシア宇宙科学プログラム及び両研究所協力協定のもと、国際宇宙ステーション（以下『ISS』）を利用した共同研究「宇宙環境における植物の適応能力とライフサイクルに関する研究」を行っています。

これまでに行った宇宙実験では、ビール醸造用大麦「はるな二条」の種子約26グラムを2006年4月24日にISSに搬送して約5ヶ月間ISSのロシア実験棟内で保存した後、2006年9月29日に地上に持ち帰ることに成功しました。この宇宙を旅した大麦種子を2007年1月に栽培し、同年5月に子種を収穫しました。同年11月には子種を栽培し、2008年5月に孫種を収穫しました。これまでのところ、発芽率が100%で、生育、稔性、葉や実の大きさ、色、形などに変化はありませんでした。また、動物実験等により、遺伝子突然変異能や毒性が無いことを確認しました。この孫種を原料にした世界初となる宇宙ビール「Space Barley」の試験醸造に成功しました。

そこで今回、宇宙大麦のひ孫種を収穫してその農業特性や安全性を調査し、宇宙環境が後代に及ぼす影響を明らかにします。

【これまでに実施した宇宙教育プログラム】

国際宇宙教育実験「MicroLADA」

宇宙実験「宇宙カイコ」

【参照】

宇宙大麦栽培ホームページ

<http://www.rib.okayama-u.ac.jp/cytomol/nishisyou/index.htm>

宇宙植物研究紹介ホームページ

<http://www.rib.okayama-u.ac.jp/2008/html/syoukai/sugimoto20080625/sugimoto20080625.htm>

研究室ホームページ

<http://www.rib.okayama-u.ac.jp/cytomol/index-j.html>

資源生物科学研究所ホームページ

<http://www.rib.okayama-u.ac.jp/index-j.html>